

観光地における戦略的な景観整備誘導システムの提案 - その2 -

正会員 松尾沙央里* 佐藤誠治** 姫野由香***
小林祐司**** 穴見修司*景観 景観整備 構図
湯けむり 観光

1 研究の背景と目的

客観的な景観評価をどのように実際の空間を操作すればよいのかまでを、一貫して検証した研究が少ないため現在の景観計画では、既往研究による景観の解析手法は生かされているとは言い難い。また、近年の景観整備で地域の個性が重要視されていることから、その1では豊富な温泉資源と扇状地が作り出す世界的にも希有な湯けむり景観を見せる観光地別府市を研究対象地とし、構図解析を用いた湯けむり景観画像の景観整備指針を提示した。

そこで本研究では、その整備指針にもとづいた整備手法をフォトモンタージュを用いて提示する。さらに湯けむり景観視点場の属性を明らかにすることにより、提示した整備手法の戦略的活用の可能性を探ることを目的とする。

2 研究の方法

研究の流れを図1に示す。162枚全ての湯けむり景観画像に、その1で提示した画像ランクの付け方にもとづいて望ましい景観との特性の一致度が高い順にランクをつける。次に、視点場の属性を提示する。

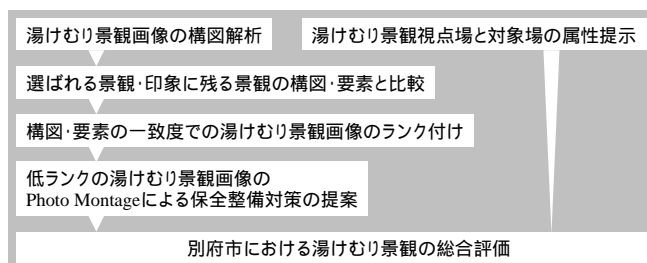


図1 研究のフローチャート

3 湯けむり景観画像ランクと考察

表1に構図タイプと湯けむり景観画像ランクのクロス集計の結果を示す。

【ランク】に分類された13枚の画像は全て、遠景の景観で市街地から湯けむりが上り立ち上り、奥に鶴見岳や扇山などの山を見る画像を多く含むB類の画像である。よって別府市の遠景は好ましい景観になる可能性が高いということが分かる。

【ランク】に分類された2枚は、どちらも印象に残る景観(以下I.L.)の特性にのみ一致した画像であった。それらの画像中で選ばれる景観(以下S.L.)の要素と一致

しなかった要素はE₁面に出現する観光資源でない「建物中高層」と、Ob₁に出現する「柵」で、1枚はS面が出現する画像だが、S.L.の条件でS面を含む画像中のE面には観光資源以外の建造物は出現していない。またI.L.の条件ではF面の「草原」とObとして「柵」が用いられる画像が多かったのに対し、S.L.の画像で「柵」は1度も出現していない。これらの事柄が【ランク】がI.L.からのみ抽出された原因に挙げられる。

また、操作を容易である【ランク】の画像はD類に多く分類された。D類は、B類の構図にE₀面が加わった構図であり、E₀面に樹木が出現する画像が多い。しかし、大規模景観画像のE₀面に樹木が出現しているとS.L.、I.L.の条件と不一致なため、樹木削除の操作が必要となる。樹木は操作容易の要素であるので、D類には【ランク】に分類される画像が多くなったといえる。

B、D類以外に分類された画像は、操作が困難、不可能である【ランク、】に多く分類された。これらの構図は、B、D類の構図と比較してS.L.およびI.L.の構図特性と一致させるために多くの操作を要する複雑な形が多い。よってそれらの画像が低ランクに分類されている。

表1 構図タイプ別湯けむり景観ランク(枚)

S: 選ばれる景観と比較した場合										I: 印象に残る景観と比較した場合									
ランク	構図(類)									ランク	構図(類)								
	A	B	C	D	E	F	G	H	I		A	B	C	D	E	F	G	H	I
		13										13							
		1										1				1			
	2	10	1	10	1	3	1	1	1		2	10	1	7	1	3			
	6	7	1	4	3	10					6	6		7	3	2			
	8	13	5	6	2	21	2	3	2		7	12	4	6	2	18	1	2	
外	8	9	3	1	3	5	1			外	1	9	10	3	1	13	7	2	3

4 湯けむり景観の視点場の属性

研究対象が大規模景観・地形景観の場合、眺望を損なわないための「保全」に主眼が置かれがちである。しかし、様々な空間での戦略的な大規模景観構成要素の導入によるフォトジェニックな景観場の整備は重要である。よって本章では、湯けむり景観の視点場の属性を明らかにすることで、現状以上に良い環境での湯けむり景観の眺望を可能とするための景観場整備を行う優先順位を決定するための知見を得ることを目的とする。そのため、以下の3つの観点から視点場の属性を提示する。

視点場のアクセス性 最も近いバス停から 300m以内

か以上かを提示する^{参5)}。

視点場周辺の用途地域 1つの視点場以外^{補)}は全て住居系地域か商業系地域に分布していることから、どちらの地域であるかを把握する。住居系地域に分布する視点場は地域住民が日常生活の中で見ることができる湯けむり景観として考えられ、商業系地域であれば観光の発展に寄与できる重要な視点場と考えられる。

画像中に含まれる湯けむりの本数 視点場から見える湯けむりの本数が多いほど湯けむり景観として高い評価ができるといえる。

以上 3つの視点から湯けむり景観の視点場の属性を明らかにした。その結果と、地区別の湯けむり景観画像ランク分類を表 2 に、湯けむり景観画像ランクの地区別分布状況を図 2 に示す。

アクセス性に関しては、最も近いバス停から 300m以上の距離がある視点場は少ないことが分かる。観海寺地区は多くの視点場を持ちながらも 300m以上距離がある視点場が目立ち、画像の多くが低ランクに分類されている。このため景観、利便性ともに整備されていない地域であることが予想され、地域景観の有効な活用が課題と思われる。

また、【ランク、】に分類された 15 枚中 8 枚は鉄輪地区の画像であった。同地区の視点場のアクセス性は全てが最も近いバス停から 300m以内、用途地域は住居、商業地域がどちらも存在しており住民は日常生活の中で望ましい湯けむり景観を見ることができ、観光客もどの視点場からも美しい湯けむり景観を見ることができ、観海寺地区は湯けむり本数は他地区と比較して圧倒的な本数を見ることができ、鉄輪地区は湯けむり景観を見るためのポテンシャルが非常に高いことが明らかである。

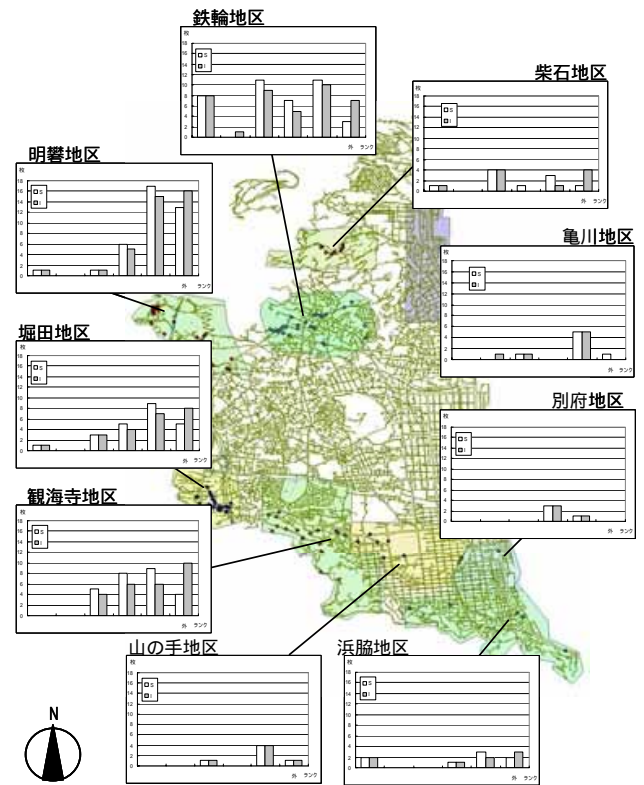
別府、山の手地区については建物の建て込んだ中心市街地内の平地部分であることから遠景を見渡す画像よりも近景の画像が多く、それらは低ランクに属している。用途地域も観光地の中心部で好ましい景観を見ることができるとは大きな利点であるので湯けむり景観の整備や活用が重要課題であるといえる。

5 総括

本研究で得られた結果を以下にまとめる。

- ・現在見ることのできる湯けむり景観の写真画像に、保全整備に要する程度によりランク付けを行った。その結果、別府市における大規模景観には望ましい湯けむり景観を見ることができ、複雑な構図をもつ画像は低ランクに属することが分かった。

- ・湯けむり景観視点場と対象場の属性を提示し、景観整備手法を戦略的に活用するための知見を得た。



S: 選ばれる景観と比較 I: 印象に残る景観と比較

図 2 湯けむり景観画像ランクの地区分布状況

表 2 湯けむり景観の視点場と対象場の属性

地区	視点場数(か所)	画像ランク分類					距離300m以上(か所)	用途地域		湯けむり本数		
		S	I	外	商業	住居		最小(本)	最大(本)	平均値		
亀川	7	S: 0, I: 0	0, 1	0, 1	0, 5	1	0	3	4	1	1	1
柴石	10	S: 1, I: 1	0, 0	4, 4	1, 0	3, 1	0	0	10	1	4	1.6
鉄輪	40	S: 8, I: 8	0, 1	11, 9	7, 5	11, 10	3	17	23	1	41	13.2
浜脇	8	S: 2, I: 2	0, 0	0, 0	1, 1	3, 2	1	2	6	1	5	3.38
別府	4	S: 0, I: 0	0, 0	0, 3	1, 1	0	0	4	0	1	2	1.25
堀田	23	S: 1, I: 1	0, 0	3, 3	5, 4	9, 7	0	0	23	1	4	2.35
観海寺	26	S: 0, I: 0	0, 0	5, 4	8, 6	9, 10	10	16	10	1	7	2.31
明礬	38	S: 1, I: 1	0, 0	1, 1	6, 5	17, 15	2	17	20	1	6	2.68
山の手	6	S: 0, I: 0	0, 0	1, 1	0, 4	1	0	1	5	1	4	2.33

S: 選ばれる景観と比較 I: 印象に残る景観と比較

補注 明礬地区の視点場のうち、1か所が市街化調整区域内であった。

参考文献

- 1) 姫野由香, 佐藤誠治ほか「観光資源が写された景観画像の構図解析手法」日本建築学会計画系論文集 No.569, pp.139 - 145, 2003.7
- 2) 姫野由香, 佐藤誠治ほか「温泉地における湯けむり景観の特性に関する研究 - その1 -」日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.615, 2003
- 3) 穴見修司, 佐藤誠治ほか「温泉地における湯けむり景観の特性に関する研究 - その2 -」日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.617, 2003
- 4) 姫野由香, 佐藤誠治ほか「イメージスケッチを用いた観光地における印象的な景観の特性分析」日本都市計画学会学術論文集 No.122, pp.727 - 732, 2003
- 5) 石井一郎「交通計画」森北出版, 2000.7

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程
 ** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 教授・工博
 *** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助手・工修
 **** 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助手・工博

* Graduate student, Master's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ.
 ** Prof., Architecture Course, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.
 *** Research Associate, Architecture Course, Faculty of Eng., Oita Univ., M. Eng.
 **** Research Associate, Architecture Course, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.